



かわせみ通信

自然観察園情報

※野外施設の情報は、ホームページで詳しく見られます↓

県立自然環境保全センター 生き物 検索



保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園(昭和57年オープン)と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前(旧林業試験場時代)に整備されました。

野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にいろいろふれることができます。

このかわせみ通信では、野外施設でみられる自然のいとなみを「季節の様子」、「気になる生き物たち」、「最近の話題」、「こんな手入れをします・しました」などの項目で情報を掲載していきます。

< 秋の様子 >



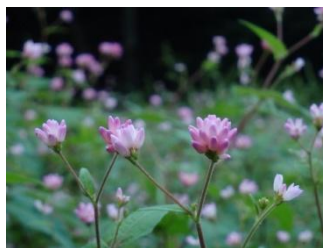
ミゾソバが咲く湿地



ヒメジソ



リュウノウギク



ミゾソバ



ポントクタデ

自然観察園の湿地ではミゾソバ、ヒメジソ、レモンエゴマ、リュウノウギク、サラシナショウマなど秋の草が咲きそろいます。園内ではシカが湿地全体をかなり自由に動き回っているので、シカが食べない種類が多いですね。シカは地上30~160cmあたりに枝や葉を広げる草木を食べますが、繊維の強いシソの仲間やヤブマオの仲間は食べていません。また、ポントクタデもシカが食べないので、この5、6年で全域に広がった植物です。

< 気になる生き物たち > — アメリカザリガニ —

この夏も県民の方々に「ザリガニ・バスターズ」として、外来生物のアメリカザリガニ釣りを楽しんでいただきました。

10月9日現在、その成果は5,525匹です。(内♂2,481、♀3,044匹)5月に釣り始めた頃は成果が少なく、やっと減ってきたのかなと思っていたのですが、今になってみると昨年の倍近いペースで捕獲されています。やっぱり、減っていなかったようです。まだまだ先は長い…。

● ザリガニ釣りの成果

※期間はその年によって異なります。

- ・ H22 年 2,673 匹
- ・ H23 年 3,030 匹
- ・ H24 年 2,947 匹
- ・ H25 年 3,414 匹
- ・ H26 年 3,191 匹
- ・ H27 年 5,525 匹

<最近の話題> イノシシ大暴れ! ?

10月3日、自然観察園の非公開エリアにセンサーカメラを設置したところ、シカとイノシシが撮影されました。日が暮れてからぞくぞくと(?)谷戸に向かっているようです。

イノシシは夜行性で、夜になると鼻を使って地面を掘りかえし、植物の根やミミズなどを食べます。自然観察園にも頻繁にやってきて谷戸の地面を掘り返しているようで、朝見回りに行くと人が耕したのかと思うほど広範囲に掘り返されていることがあります。

撮影された時間は17時30分。閉園時間の1時間後にやってきています。イノシシは時速45kmほどのスピードで走ることができるといわれ、約70kg以上のものを動かせるほどの力があります。鉢合わせして攻撃されるととても危険です。夕方、早朝は音をたてるなど、こちらの存在を予め知らせるような注意が必要です。



谷戸に向かうイノシシ



イノシシの掘り返し跡

<こんな手入れをします> ー湿地のハンノキとナガバヤブマオー



湿地の様子

自然観察園はオープンから約30年が経過し、湿地にはハンノキの実生木がたくさん育ってきました。葉が茂っている夏は薄暗い森になっています。

また、平成20年頃からの侵入種で、シカの行動とともに分布拡大したナガバヤブマオが繁茂してい



ます。明るい草原として豊かな種構成の草本群落を維持する目的で今後、これらを除くしていきます。

ナガバヤブマオ

10・11・12月のミニ観察会 (申込不要・参加費無料・雨天決行、当日午後1時に本館前集合)

ボランティアの解説員とともに野外施設の生き物を観察します。時間は約2時間です。

10月: 4(日)・11(日)・12(月・祝)・18(日)・25(日)

11月: 1(日)・3(火・祝)・8(日)・15(日)・22(日)・23(月・祝)・29(日)

12月: 6(日)・13(日)・20(日)・23(水・祝)・27(日)

傷病鳥獣救護の情報

※救護原因の詳細やその他の情報は、ホームページ↓

神奈川県 自然保護課 野生動物救護 検索



<平成27年7月～9月の受け入れ実績報告>

〔受付件数の多かった上位5種〕

1位	ツバメ	(57件)
2位	スズメ	(25件)
3位	アオバト	(13件)
3位	ヒヨドリ	(13件)
5位	キジバト	(12件)

〔人間が関係する主な救護原因〕

＜鳥類＞	ガラス窓などへの衝突 イヌやネコに襲われる
＜哺乳類＞	交通事故 疥癬（かいせん）症

こんな哺乳類も
来ました…



ノウサギ（幼獣）



ニホンリス



ムササビ（幼獣）

<夏のイベント実施報告>

「第5回野生動物を学ぶ！-夏休み体験教室-」

共催：NPO 法人野生動物救護の会



ヒヨドリの放鳥体験

8月1日（土）、小学校4年生から6年生の方々に動物たちのお部屋の掃除やエサやりなど動物との触れ合いを体験していただきました。この体験を通じてなぜ、ケガや病気になってしまう野生動物がいるのかを考えるきっかけとなればうれしいのですが・・・。

以前、このイベントに参加された方が野生動物に興味をもち、当センターの野生動物救護ボランティア講習会を受講して、実際に救護活動に参加しています。

毎年開催していますので、来年をお楽しみに！

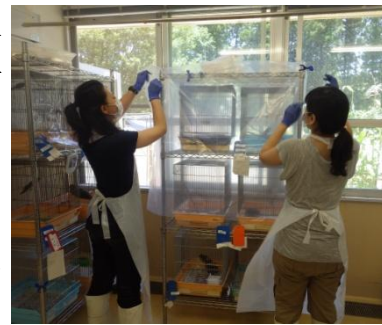
「野生動物救護ボランティア講習会-修了式-」

ケガをした野生動物のお世話をする野生動物救護ボランティアになるための講習会が行われ、その修了式を9月27日（日）に行いました。講習会は6月に実施し、3日間（7月から9月の間）の自主研修を終えた36名の方が無事に修了しました。参加された皆様、どうもありがとうございました。

今後の活躍に期待しています！



修了式の様子



研修中の様子

<珍しい鳥が保護されました>



この鳥をご存じでしょうか。アリスイ（蟻吸）という名のキツツキの仲間です。その名の通り、アリを好み10cmもある長い舌で絡め捕ります。神奈川県内では、主に冬鳥として見られますが、北から南へ渡る途中に保護されたようです。当センターでは、31年前に保護記録が1件あるだけなので、珍しい種類といえます。

9月23日の保護時にはアリをたくさん食べていましたが、残念ながら3日後に死亡してしまいました。解剖の結果、内臓が損傷しており出血が激しく、右の肋骨も骨折していることから衝突が原因と思われます。

<最近の放獣報告> 一子タヌキ5兄弟ー

平成27年4月30日にタヌキ（授乳中）の幼獣5頭が保護されました。

タヌキは里山から住宅地まで広く生息していて、春になると4～6頭の仔を産み、秋には親離れをします。毎年春になると、迷子の子タヌキがいると相談されることが多くなるのですが、実は迷子ではなく、親がエサを探しに離れているだけで、ほとんどの場合は親が戻ってきます。しかしこのケースでは、車の往来の多い工場内ということで、交通事故を起こす可能性があり、周辺も工場地帯ということで元に戻すことができず、やむをえず受け入れることになりました。

子タヌキ5兄弟（オス4頭、メス1頭）は、産まれて間もなかったため、5頭にミルクを与えるのにとっても時間がかかりました。それでも野生動物救護ボランティアのご協力で、すくすくと成長し、外の環境にも慣らしてから9月14日に無事放獣しました！



保護時の様子（約245g）



放獣直前の様子（約4kg）

<最新のイベント情報>

救護動物特別公開を開催いたします!!

ー身近だけど、間近で見ることの少ない野生動物を観察してみませんか？ー

野生動物救護の現状を多くの方に知っていただくため、普段は非公開の動物たちを特別に公開いたします。

日時：2016年3月13日（日）

時間：13:30～15:30

場所：自然環境保全センター 鳥獣保護棟

予約不要・参加無料

雨天決行（強風や大雨などの悪天候を除く）



公開中の様子